

「総合的な学習の時間」における新聞の活用

兵庫県立神戸高等学校 校長 竹内 弘明
教諭 桑田 克治
茂木 茜
大橋 宏記

1. 実践概要

本校では、「総合的な学習の時間」を、1年次に「神高ゼミⅠ」、2年次に「神高ゼミⅡ」と称して、実施している。そのうち、「神高ゼミⅠ」においては、“コミュニケーション能力”“協働性”“プレゼン能力”“分析力”“読解力”を伸ばす、という目的を持って取り組んできた。内容的には、従来は「卒業生調べ」「現代社会の諸問題」「ディベート」「小論文」といったものであった。その内容を昨年度、若干変更した。具体的には、前半部分を「神高八景」「コラムを読んでもみよう」「私の！（ビックリマーク）」「賛否両論」「職業人」といった内容に変え、後半の「ディベート」「小論文」への橋渡しとした。

本年度は、「コラムを読んでもみよう」「私の！（ビックリマーク）」「職業人」に加え、「報道写真の真価を問う」も実施した。

具体的な内容は後述するが、普段新聞を読む、という習慣のない生徒にとっては、NIEの実践は、ある意味刺激的な授業展開となっている。この実践を通して、新聞を読むようになった生徒も出てきた。今後、さらに深化させるべく、案を考えていこうとしている。

なお、実践報告は、NIE教育に関わる実践のみを記述した。

2. 新聞置き場と整理方法

昨年度は、授業を展開するにあたり、生徒に1週間分の新聞を各家庭から持参させ、

各教室にストックした。

本年度は、推進協議会から頂いた4カ月分の新聞（1、2学期に各2カ月分ずつ）を、図書室に保管し、授業の際に利用した。展開がある期間は、図書室で保管・整理を行い、最後のテーマ「報道写真の真価を問う」で切り抜きを行った後、図書室から引き揚げた。

3. 実践内容

新聞を使つての授業を「世知世知歩き」と題して展開した。

① 「コラムを読んでもみよう」



朝日新聞 2014年6月1日朝刊「日本語科の40年 アラブの若者に届けたい『日本』」を利用

- 見出しだけを空白にしたコラムのプリントを配布し、要約をさせた
- コラムの見出しを考え、20字以内で答えさせた
- コラムを読んだ上で、「外国語を

学ぶこと」について、思ったことを書かせた

(d) コラムの見出しは、データとして一覧にまとめ、全員に提示した上で、記者が記した見出しを提示し、感想を指名して答えさせた

② 「私の！(ビックリマーク)」

1週間分の新聞(朝刊のみ)を読み、それぞれの曜日の最も興味・関心を持った記事(スポーツは除く)を一つ選ぶ。そして、1週間を通して最も大きかった「！」を選び、その記事を選んだ理由などを、選抜してコメントさせた。

外国人労働者問題 ①



○ 次の(1)～(3)について、答えなさい。解答はすべて裏の欄に書きなさい。
 (1) 「読売新聞」の記事を読み、次の問題に答えなさい。
 ① 人手不足によって引き起こされている問題を書き出しなさい。
 ② 人手不足問題を解決する方法として、何をあげているか、書きなさい。
 (2) 「毎日新聞」の記事を読み、次の問題に答えなさい。
 ① 人手不足問題が起きた原因を何とらえているか、書きなさい。
 ② 人手不足問題を解決する方法として、何をあげているか、書きなさい。
 (3) 2つの記事を読み比べ、2つの新聞社の問題取り下げ姿勢について、思ったことを書きなさい。

私の 朝日新聞

月日	新聞社	記事の見出し	記事の要約	選んだ理由
月日				
上記のうち、最も興味・関心があったものを月日 記事の要約し、ここに書く。				
1週間を振り返って感じたことをまとめよ。				

③ 「賛否両論」

本年度は実施しなかったが、昨年度実施したものを記述しておく。

「人手不足と外国人労働者問題」と題して、読売・朝日新聞の記事や特集、コラムを5編プリントし、新聞社による掘り下げ方の違いなどを認識させた。そして、賛否両論を見させ、自らの立場を示した上で、論述させた。そのことは、2学期のディベートのさわりとした。



外国人労働者問題 ②



○ 「外国人技能実習制度」改正について、論じられた3つの記事を読み、その制度の存続について、あなたの意見を述べなさい。解答は裏の欄に記入しなさい。

④ 「職業人」

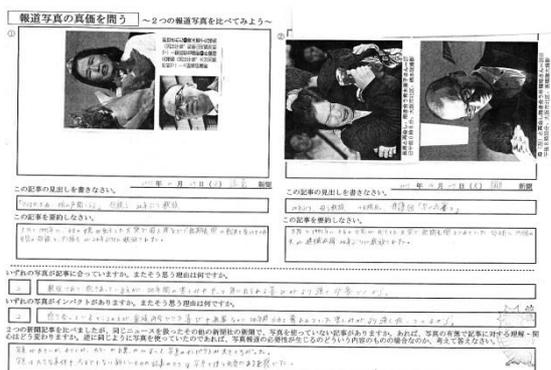
「人はどうして働くのだろうか」～最近の新聞や雑誌に載った働く人の記事を読み、考えてみよう～と題して、朝日・毎日新聞の職業人の記事や特集、

雑誌『COURRIER』の記事を使い、それぞれの人の職業選択やそこで働く理由などを読ませた。その上で、まず、読む前に働く理由を書かせ、読後に改めて働く理由を書かせた。



⑤ 「報道写真の真価を問う」

異なる新聞社に載せられていた同一内容の記事に対する報道写真を2つ選び、切り貼りさせると同時に、どちらの写真が記事に合っているかを考えさせた。また、報道写真の有無による違いも考察させた。



⑥ 「小論文」

朝日新聞の「パワーシート」などを参考にしながら、小論文の書き方などを学習し、実際に新聞記事を使って、書かせた。

4. 実践の感想と今後の課題

① 3. のそれぞれの実践を終えて

(a) 「コラムを読んでみよう」

どれだけ言葉を吟味して、見出しを付けられるかを見たかった。

結果、記事から読み取って見出しを付けることの難しさを感じる一方で、見出しを見せられた時の納得感を、生徒は感じ取っていた。また、内容に対する感想を読むと、外国語習得に対する国内外の温度差を感じ取ったようである。また、同じ記事を読んだにもかかわらず、さまざまな見出しが出てきたことに、新鮮な驚きもあったようだ。

(b) 「私の！」

1週間分の記事に目を通して、一つは自分なりの視点があることに気付かせ、テレビやネットで見聞きしていた記事以外にも、さまざまな情報があることを知ってもらいたかった。

結果、新聞を読む面白さに気付いた生徒が出てきたことは、大きかった。また、自分が教育、あるいは交通といったものに目が行っていることに気づき、自分の進路について考えた者もいた。予想以上に、反応は良かった。

(c) 「賛否両論」

授業を行うきっかけとなったのは、その数日前に、強風でビル解体現場の足場が崩れ、未熟な業者による現場という実態が露呈される事件である。このニュース及び新聞記事を読むことで、「人手不足と外国

人労働者問題」を立ち上げた。生徒は、自分のそばで起こった事件だけに、入りやすかったようであるが、表題の内容の重さに、少し引いた感じはあった。しかし、賛否いずれかの立場で書かせた論文は、記事を読むことで得た知識を、そのまま書き写すのではなく、自らの言葉に置き換えながら、書いていた。思った以上に、自分なりの考えをまとめるものだ、と感心した。

(d) 「職業人」

この授業では、さまざまな職業人の記事を読む前と読んだ後では、どのような意識の変化が起こるかを、見てみたかった。

読む前は「働くことは金もうけ」という内容の文が圧倒的に多かった。その後で、記事を読みながら、「なぜ働くのか」「なぜその職業なのか」「仕事に何を見いだしたのか」という視点を設問にかえて、論述させた。すると、「人のため」「やりがい」「自分を生かすため」といった社会的地位の確立や自らの信念が大半を占めるようになった。まだ高校1年生であることを考えれば、漠然とした将来の話であったが、職業について考える機会にはなった。

(e) 報道写真の真価を問う

図書室に置かれていた新聞の処分を考えた際、このままりサイクルに出すのはもったいないと思い、切り抜きを考えた。

さまざまな新聞に、同一の内容の記事が載せられており、同一の写真

を使っている場合もあるが（その理由は説明した）、多くは記事に合う形で各社が写真を掲載している。中には、写真がない場合もあり、その場合は、写真の有無で記事に対するインパクトの違いなどを述べさせた。生徒は熱心に写真を見て、選んでいた。結果として、視覚的に訴える報道写真は必要だと思った生徒が多かった。

(f) 小論文

小論文と感想文の違いなどを説明し、実際に「天声人語」を読ませた上で書かせたが、授業時間数の関係で中途半端になってしまった。

② 全体を通しての感想

新聞を使つての授業展開を、昨年引き続き実施してみて、やはり、その必要性は実感した。文を読む、書く、という知的作業を、ある程度遊び的な要素も入れながら、実施するのは、長い文を読み慣れぬ生徒に良い刺激であろう。今回は、「総合的な学習の時間」の中での実施だったが、地歴・公民の授業の中での展開もさることながら、各教科の中でできればいいのだが、と思えた。ただ、時間的な制約が大きく、なかなか実現は難しいか、とも思われる。

③ 今後の展望

平成28年度は、カリキュラムの関係で、「総合的な学習の時間」での展開が難しいため、公民の授業の中で、展開する予定である。29年度には、再び「総合的な学習の時間」での展開を入れる予定である。